

会 議 録

名 称		酒田市子ども・子育て会議（令和6年度第2回）
内 容		○協議 （1）子ども・子育てを取り巻く環境～酒田市の現状と課題～について （2）第2期子ども・子育て支援事業計画の評価について （3）こども計画骨子（案）について ○報告 （1）八幡保育園の保育について
日時・場所		令和6年10月31日（木曜）午前10時～11時40分 酒田市総合文化センター412 特別研修室
出席者	委 員	梅津 満希子委員、池田 祐子委員、齊藤 公乃委員、宮田 浩一委員 鈴木 久美子委員、佐藤 由夏委員、大滝 晋介委員、白畑 真由美委員 高橋 靖委員、阿部 邦彦委員（鈴木渉委員代理）
	事務局	高橋紀幸健康福祉部長、今井綾子教育委員会学校教育課長、村上環保育こども園課長、阿部美穂こども未来課長 ほか
会議の結果		別紙のとおり
配付資料		・ 次第 ・ 出欠席名簿 ・ 資料1 子ども・子育てを取り巻く環境～酒田市の現状と課題～ ・ 資料2 第2期子ども・子育て支援事業計画の評価 ・ 資料3 酒田市こども計画骨子（案） ・ 資料4 八幡保育園の保育について ・ 参考資料① 子育て支援に関するアンケート調査結果 ・ 参考資料② 山形県こども計画（仮称）骨子 ・ チラシ こども未来ワークショップ ・ 案内文書 令和6年度酒田市保育力向上事業研修会

酒田市子ども・子育て会議（令和6年度第2回）

日時：令和6年10月31日（木曜）

午前10時～11時40分

場所：酒田市総合文化センター

412 特別会議室

～ 1 開 会 ～

○こども未来課土門課長補佐

本日はお忙しい中、ご出席ありがとうございます。暫時の間進行を務めさせていただきます、こども未来課の土門と申します。よろしくお願いいたします。最初に、今日ご欠席の方をご報告申し上げます。酒田市PTA連合会 丸藤学様、若浜保育園保護者会 佐藤卓様、酒田地区私立幼稚園・認定こども園PTA連合会 岸田孝之様、酒田特別支援学校PTA 高橋幸宏様、公募委員 佐藤 真紀様、公募委員 佐々木 由子様、特定非営利活動法人にこっと 佐藤 多紀子様、酒田市自治会連合会 五十嵐 勤様、酒田市民生委員児童委員協議会連合会 加藤 武雄様、酒田商工会議所女性会 伊藤 直子様、以上10名の委員の皆様から欠席のご連絡をいただいております。なお、酒田地区医師会十全堂 大滝 晋介委員からは、遅れてご出席の連絡をいただいております。また、連合山形酒田飽海地域協議会 鈴木 渉様に代わりまして、本日阿部様のご出席でございます。本日委員20名中10名の出席をいただいております。酒田市子ども・子育て会議条例7条2項に、定足数を規定しておりますが、本日こちらの規定を満たしていることをご報告させていただきます。それではこれより、令和6年度第2回酒田市子ども・子育て会議を開催いたします。次第に従いまして進めさせていただきます。最初に健康福祉部長がご挨拶申し上げます。

～ 2 健康福祉部長あいさつ ～

○高橋健康福祉部長

皆さんこんにちは。健康福祉部長の高橋と申します。本日は本当にお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。初めに、7月に大雨災害がありあれから3カ月が経過しました。この間、市としても様々な災害対応を実施してきましたが、特にこの会議の事務局でありますこども未来課におきましては、災害ボランティアセンターの設置、これは社会福祉協議会さんに要請して共同で運営していたわけですが、そちらの対応を主にしてきたところでございます。災害から3カ月が経過して、災害ボランティアの活動についても一定程度方向性の目途がついてきたものと思っていますところです。今

まで約 800 件、延べ 7,000 人のボランティアの方から活動していただき、まだ少しニーズが残っているので、活動が続けなければいけないと思っていますところでございます。ただ、一方で避難所も一定程度閉鎖して、通常の生活ではないんですけれども、次のステップの生活に移ってきたところでございます。その中で、被災者に対する生活支援、支え合うという支援のサポートをしていく必要があるということで、11 月 1 日から災害ボランティアセンターから生活支援・地域支え合いセンターに、目的を変えまして 11 月からの設置を考えているところでございます。その中で、被災者の見守り活動、それから生活再建の取り組みを進めていきたいと思っております。当然ボランティアの活動につきましても、そこに引き継ぎながらサポートしていきたいと考えているところでございます。被災者の方々の生活はこれからも様々な課題があります。皆様からのご協力いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

この子ども・子育て会議ですけれども、前回の会議の中で、今までの子ども・子育て支援事業計画、これを今度新たにこども計画として一体の計画として策定することについて、皆様からご了承いただいたところです。今回の会議につきましては、本市の子ども・子育て環境の現状と課題、それから現計画の評価というものをご説明させていただきまして、それを踏まえた形で、新しいこども計画の要点・骨格について、皆さんからご協議いただき、ご意見をいただきたいと思いますと思っています。皆様からいただいた意見等を踏まえて、今後具体的な施策を検討していきたいと考えているところです。なお、これもお願いになりますが、11 月 23 日と 12 月 7 日に、この子ども・子育て支援のあるべき姿を話し合うことを目的に、中学生以上の市民を対象としました「こども未来ワークショップ」を開催する予定になっております。詳細は後で説明させていただきますけれども、こちらにつきましても、委員の皆様からもし可能であればご参加を検討いただければと思っていますところでございます。計画の要点・骨格が整理されることで、市民の皆様にとってわかりやすい計画となり、それがより実効性の高いものになっていきます。計画は作って終わりではなくて、そこを進めていくことが大事になりますので、それを市民の皆さんから理解してもらうこと、これが一番大事だと思います。このことにつきましても、ぜひ委員の皆様からは、率直なご意見いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

～ 3 協 議 ～

○こども未来課土門課長補佐

(配付資料について確認)

○こども未来課土門課長補佐

それでは、これより議事進行を白畑会長に引き継ぎたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

○白畑 真由美会長

改めまして、こんにちは。本日はどうぞよろしくお願いいたします。会長を務めさせていただきます白畑でございます。本日から具体的にこども計画の検討に入って参ります。委員の皆様からは忌憚のないご意見、日頃感じているようなこと、いろいろとお知らせいただければと思います。その上で、議事進行にご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

では、次第に沿いまして、進めさせていただきます。まず、(1) 子ども・子育てを取り巻く環境～酒田市の現状と課題～について、資料1により事務局から説明をお願いいたします。

○こども未来課佐藤子育て支援主査兼子育て支援係長

(資料1により説明)

○白畑 真由美会長

子ども・子育てを取り巻く環境について説明がありました。ポイントがいくつかあったかと思いますが、今の説明に関してご意見またはご質問などあれば、お聞かせいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

大変大きい課題にはなると思うのですが、総合計画にうたっている以上に、子どもが生まれていないという状況を当局としてはどのように分析をされているか。もし、課題として挙がっているようなことがあれば、全国的なことでもよいのでお知らせいただければと思います。

○阿部こども未来課長

出生数に関して具体的な分析とまではいかないですが、酒田市において本当に出生数の減少が激しいとは感じておりまして、特に今年の出生数がまた下がるような見込みになっております。やはり未婚化というところもありますし、そもそも女性、出産する女性の数、その年代の方が酒田市内に少ない状況が（少子化を）招いていると思っております。出生数を増やすにはどうしたらいいかというところが、本当に皆さん全国的にも頭を悩ませている課題だと考えておりますけれども、やはり少しでもその減少を抑えるような形で施策を行っていくしか今のところないかと考えているところです。

○大滝 晋介委員

前に小児科学会でも、現在の少子化対策、どういうところに注力したらいいかということで特別講演があったんですが、その席では今の若者の貧困、そこを改善しないと結局のところ子どもは生まれないと。だから、今の若い人たち、あまり収入が多くないので、それで家族を持とうとも思わないし、ましてや子どもを産もうという気持ちにもならないと。若い世代のいわゆる貧困というか収入が少ないこと、そういうところから改善していかないと、酒田でもいろんな子育て支援とか一生懸命やっても、実際に若い人たちの収入がないと、やっぱり自分のことだけで精一杯で、家族を持とうとか子どもを持とうという

気持ちになかなかないんじゃないかという、そういう内容でした。そういうことから考えると、酒田市のその少子化対策、ある程度根本的なところから考え直していかないと、このままでいくとジリ貧になって、それこそ前にちょっと話題になりましたけど、消滅する自治体の一つに挙げられているわけで、ですから若者たちをどういうふうに酒田市につなぎとめておくか。さっき課長さんから子どもを産む世代の女性の数が少ないんだという話がありましたけど、そういう人たちをどうやって酒田につなぎとめておくかというところを真剣に考えておかないと、なかなかすぐには子どもの数は増えてこないし、どんどん子どもの数が減っていくのかなという気がします、酒田市の方ではどう考えているでしょうか。

○阿部 こども未来課長

大滝先生のご意見ごもっともと思っております。若者にどうこの地域で暮らしていただくか、子育てしていただくかというところを考えると、やはり仕事、若者の仕事をどう確保するかというところを酒田市でも課題として考えておりまして、その若い世代が仕事のできる環境にするというところに重点を置いた取り組みをしていこうと、今やっているところでございます。

○白畑 真由美会長

本当に若者の貧困ということから言えば、大学に行ってみて改めて、今の大学生はアルバイトで全部自分で賄っている学生が結構いて、もしかしたら公益文科大学の特徴なのかもしれませんが、もうそこから負がスタートしているという状況を目の当たりにしています。児童家庭福祉法の授業で学生にアンケートをとると、経済対策をしっかりして欲しいというようなことを言っているの、みんな選挙行こうねって言ったんですけども、やっぱりそこから負がスタートすると、今大滝先生おっしゃられたように、負のまんまいくとその後の経済状況も安定しないという状況の中では、子どもをもうけようというような気持ちには、まして結婚しようというふうにはならないのかなと思っています。あと、今読み始めている本で、『なぜ地方女子は東大を目指さないのか』という本が出ていまして、東大の女子が書いているらしいんですが、今まさしく大滝先生がおっしゃられたような、若い世代の女性が地元に戻らない理由として、魅力がない、働く場所がない、遊ぶ場所がないという、ないないづくしの状況の中では、やっぱり若い女子が戻ってこない。そのために根本的にまちづくりを見直す必要があるんだというようなことが書いてあると紹介していただき、私も読んでみようと思うんですが、やはりそういうところが、もしかしたら総合計画後期計画、あるいは今後の計画の中に反映される必要があるのかなと思いました。女性の就業率のM字カーブはなくなっているとは言いながらも、働くことはいいことだとは思いますが、働かざるを得なくて働いている人たちも相当数いるのではないかなという、この7ページの表からもすごくうかがえるかなと考えたところです。

○佐藤 由夏委員

データのところで参考までですが、合計特殊出生率の推移ということで、令和4年ま

で記載していただいておりますけども、令和5年は、国は1.0、県が1.2ということで、そこまでは公表されているものですので、情報共有させていただきたいと思います。県でも、酒田市と同じように今年度中にこども計画を策定予定で今進めているところで、本庁の方が主導していくんですけども、やはり課題としては同じ課題がもちろんございまして、お子さんたちの意見を聞きながらですとか、子育て世代の保護者の方々のお話を聞きながらですとか、そういったことも含めていま様々な評価ですとか取り組みを進めているところでございます。この間、たまたまテレビを見たときに、地方の人口減少のことをやっていると、酒田市のある世帯の方が取り上げられて、矢口市長も出られてコメントしているのを見たんですけども、やっぱり若い女性が外に出るっていうことが、家族の意識として、(地域社会が)何かこう閉鎖的な感じで捉えられていたんじゃないかなというようなところが気になったというか、そうなのかもしれないなと思ったところではございました。

○白畑 真由美会長

では、また後ほど他の項目のところでも関連する部分が多くあると思いますので、(2)に進ませていただいてよろしいでしょうか。

それでは次、(2) 子ども・子育て支援事業計画の評価についてということで、事務局より資料2により説明をお願いいたします。

○こども未来課佐藤子育て支援主査兼子育て支援係長

(資料2により説明)

○白畑真由美会長

私からですが、1 ページにある1丁目1番地のような子育てに関して不安感や負担感を持った保護者の割合が高くなっているということが非常に残念といいますか、現実として適切に子育て世代の方々に届いていないということを、すごく見せつけられたような感じがするんですけども、これに対してどのような見方といいますか、評価、判断をされているかということを少しお知らせいただければと思います。

○阿部こども未来課長

やはり平成30年のときに39%だったアンケート結果が、今回67%ということで大きく上がっております。私としては全国的にも負担感や不安感が高くなっている状況ではないかと考えております。経済的な問題などいろんなところが、社会情勢が相まって負担感が大きくなっているのかなと感じているところです。そんな中にあっても、こちらでやっている相談対応ですとか、子育て支援策というものが、皆さんに理解いただいているのか、ちゃんと分かっているのかということに関しては、やはり皆さんに届けられるような形で日々考えていきたいと思っています。

高橋健康福祉部長

私からも補足いたします。多分支援制度であるとか、そういう対応のボリュームという

か質というのは、以前よりも拡充されてきていると考えております。ただ、いま課長から説明があったように、そういうものが必要な方々にちゃんと届いているのかという部分の確認、その対応というのはこれから本当に検討していかなければと思っております。多分不安感が増えている一つの理由として考えられるのは、核家族化というのがどんどん進んできたことで、以前であれば三世代というのが相当数あって、場合によっては出産の際に里帰り出産するというのが相当数あった。それが当たり前であった時代から、そうじゃない時代になってきた。そうなることによって、やはり親のサポートが受けられる環境であったものが最近では受けられなくなってきている。一部の事例ですけれども、親に預けようと思ったら、親が自分はまだ働いているから、子ども、孫の面倒は見れないよというようなこともあるようです。以前は、孫の面倒は進んでおじいちゃんおばあちゃんが見てくれた環境があったと思うんですけれども、多分そうじゃない環境に今来ている。人口減少はこれだけ進んでいる中で、酒田市の世帯数というのはいまだに増え続けている。つまり核家族化が進んでいるという状況です。ただ、残念ながら実はここ数カ月、世帯数が減少に転じてきました。つまり、核家族化もできないくらい人口の減少が進んだのかなという課題もあるところですので、今会長からご意見ありました通りに、やはりそれも踏まえた形で、行政としてどういうふうに対応していくか、しなければいけないのかというのを、もう一度制度の周知も含めてですけれども、前提も変えながら考えていかなければいけないと思っておりますので、皆様方からもご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○大滝 晋介委員

これは前にも話をしたことがあるんですが、酒田市でやっている子育て支援というのは、ものすごくいいことをやっているんです。実は子育て世代包括支援センターだった頃のぎゅっとの立ち上げからお手伝いさせてもらったんですが、東北の小児科の集まりでお話をしたときに、他の県のあるいは県内の先生からものすごく評価をいただきました。というのは、その時に専従の保健師と助産師をつけているところは酒田市しかなかったんです。先日も東北地方の小児科の集まりに行ったときに、新潟の先生から酒田はどうですかと、酒田の子育て支援はすごく評価されているんです。同じぐらいの人口の新潟の先生と話をしたときにも、酒田を見習わなくちゃというような声が聞かれました。宿泊型の産後ケアをやっているところは、酒田ぐらいしかない。今年は利用者が7人くらいいるということで、すごいねっていうことを、そういう会議に出ると皆さんが寄ってきて酒田どうですか酒田どうですかって言われます。それだけ酒田は子育て支援に力を入れているのに、ぎゅっとを知っているのが1割しかいないっていうのが現状なんですね。それはやっぱり、自信を持って酒田の子育て支援、こういうことをやっていますという宣伝が、酒田の人たちは下手なのかなと。本当に僕は子育て世代包括支援センターのままでよかったのになと思っていましたが、国の方で施策を変えてしまった。それは全国的に見て、子育て世代総括支援センターがうまくいってなかったから国の方で施策を変えたんだと思うんですが、酒田はすごくうまくいって機能していたんですね。だから、それだけ酒田で皆さんがやられている子育て支援、本当に胸を張っていいくらいのことをやっているのに、それが一般

の市民に伝わっていないっていうところは、もっともっと宣伝をうまくやって大いに利用してもらおうということに力を入れていった方が、せっかくやっていることを皆さん知らないのでは、1割の人しか知らないでは評価も低くなってしまうし、酒田で子育てをするのは不安だというふうに思われてしまうのかなと思っています。ですから、せっかくこれだけいいことをしているのですから、もっともっと上手にアピールして、胸を張って宣伝をしてもらったら、本当にお母さんたちは安心するのかなと思いますのでよろしくお願いします。

○白畑真由美会長

多分今ときはホームページなどよりも、インスタ、フェイスブックなのかなというのを、大学に行って改めて感じています。ハッシュタグ何々というのをバーッと下につけるといのが、今どきの主流なんだなということを改めて感じているところで、そんな情報発信も含めて検討いただければと思います。

○阿部こども未来課長

やはり前々から先生からご指摘いただいているように、PRベタというか、周知の仕方等も考えていかないといけないというところです。インスタまではまだいってないですけども、フェイスブックについては、「こどもまんなかやってみた」というハッシュタグをつけて、こどもの施策等を発信するという取り組みもようやく始めたところです。そのところでも、制度の発信なども含めてホームページも含めてやっていきたいと思っています。あと、直接お会いしてのPR、周知もやはり必要だということで、今まで以上に妊娠8カ月時や妊娠届け出時の制度のお知らせというのも、対面で続けていきたいと思っています。なお産後ケアにつきましては、宿泊型に加えて、通所型と訪問型も、11月からようやくメニューを拡大して行えるような形に、9月の補正予算で拡充することになりましたので、それも含めていろんなところでPRしていきたいと思っています。やはり、産後ケアについてはすごく需要が高くなってきている状況で、今年宿泊も現在だと9人ほど使っている状況で、今まででは考えられなかった人数です。今までは大体3、4人なんですけれども、やはりニーズが変わってきているなと考えています。

○池田 祐子委員

基本施策1の地域で子育てを支援する環境づくりという2ページのところなんですけれども、その気軽に相談できる場所があると認識している割合というところが、73%から45%に下がっているっていうのが、ちょっと残念だなあと正直感じていました。下の方にいって、利用できていない、できなかった保育サービスというのが、病児病後児、それから延長保育、学童保育という順になっていますけれども、これに対して市としてはどんな対応というか、施策があるのかということ。それから、3ページにみなと保育園で休日保育事業を行っているということがあるんですけれども、こちらの方は保護者さんのニーズはどんなものかということと、今本当に休日保育は皆さん必要とされているのかどうなのかというところ。今、病児病後児、延長保育、相談できる居場所というのが求められてい

る中で、酒田市としてはどんなふうにこれから考えていかれるのかなという現状を教えてくださいながら、説明していただきたいと思います。

○村上保育こども園課長

まず利用できなかった保育サービスについて、病児病後児保育、延長保育、学童保育の順ということでしたが、病児病後児保育は、今1日最大9人をお預かりしております。生後3カ月から小学校3年生までですけれども、こちらについてはコロナ期もありましたが、延べ人数だけを申し上げますと、令和3年度で519名、令和4年度で387名、令和5年度ですと610名ということです。右肩上がりで増えているかというところについては、病気の流行にもよる部分があるのですけれども、実際の登録数で言いますと、令和3年度で105、令和4年度では103、令和5年度では130ということで、令和5年度になって、コロナ禍が明けて、登録、利用したいという方については増えていると見ています。需要について、1日9人というところがどうかというところの判断はできないですけれども、利用したいという方に病児病後児保育事業というのがあるのだということは、伝わってきているのではないかと考えております。あと、令和6年度からですけれども、病児病後児保育については、登録は紙で登録をさせてもらっていましたが、それをインターネットで登録ができるということにしております。ただ、利用については実際にあきほの病児保育所にお電話をしていただくということになって、そこについても、利用しやすい手法というのはさらに考えられるのかなと考えているところです。また、延長保育については、利用できなかったというのが、分析はできていないところですが、延長保育をお断りするということはないとは思っておりますので、お預かりさせていただきたいと思います。また、学童保育ですけれども、実際に待機児童が出ております。学童保育については、本来の意味であれば、低学年を主にしていたんですけれども、今全国的には、希望する方については学年を問わず受入れるようになっております。少子化が進んでいる中でも、学童保育の利用希望というのは増えている状態にありまして、需要は増えています。ただ、施設を増やして何とか受け入れようとしたところなんですけど、実際には学童保育の指導員の確保ができないという現状がございまして、今大きい組織ですとがくほれんという組織がありますけれども、そちらの方にも、例えば人を増やして施設を増やしてというようなことが可能かという協議はもちろんさせていただいているところです。ただ、今現状の施設を運営するので手一杯、また施設の指導員の方も高齢化が進んでるというような現状もあるので、ここについては少し違ったフェーズになって、もう年代を交代するというようなフェーズが来ているので、ここも課題と思っています。また休日保育ですけれども、休日保育は一定の利用はございます。自営業の方など固定的に利用があります。1月1日の石川の地震があった日、あの日も休日保育はしておりまして、松原小学校の方に、子どもと一緒に避難をしたという状況もございます。

○大滝 晋介委員

8ページの真ん中あたり、令和5年度から児童生徒一人一台端末を活用した悩み相談SOSを実施とありますが、実は私の患者さんで、死にたいということでここに相談を入れた子

がいます。その子がしばらく相談専門員の方とやりとりをしていたんですが、そのことが親にも学校にも全部筒抜けだったんです。ということは結局、せっかくこういうもので悩み相談をした子どものプライバシーが全然守られてなくて、ここに誰々さんから死にたいっていうメッセージが何回も入りますということが、そこから親にも学校の先生にも、全部行ってしまうんですね。何のためのSOSなのか。やっぱり知られたくないから、端末を使って相談員に相談をするわけですけど、相談が全部親にも行ってしまえば、お前相談したのかということにもなってしまうので、この制度に関しては、相談した子どものプライバシーを最優先で、その相談に乗れるようなシステムに改めてというか、そういうことをもう一度考えてもらって、その子どもの本当の声を親身になって聞いてもらえるような、そういうシステムにしていだけたらなと思っています。実際にどういうシステムになっているのか分かりませんが、でも実際にそういうふうに、子どもがせっかく一生懸命誰にも知られたくなくて相談しているにもかかわらず、その情報が関係機関とつながるというふうに書いてありますけども、全部情報が筒抜けになってしまうと相談する子どもは逆に不信感を持ってしまふんじゃないかと思いますので、この制度に関しては、その辺の精査をしっかりともらいたいなと思っています。

○今井学校教育課長

この悩み相談 SOS に関して、確かに大滝先生おっしゃるように、子どもが直接相談できるということがあって、内容によっては相談員からこれどういうふうに対応した方がいいかというようなことも、我々の方にいろいろ話にくるわけですが、基本的には、お子さんに、このことはすごく大事なことで学校に伝えてもいいですかとか、そういうことを聞いて、了承を得てから連絡をするという形にしています。ただ、事例の件がどういってお話されたか分かりませんが、緊急性があるという場合には、内々で様子見てくれというような形でお話しすることもありますので、もしかしたらそういったところから実はということになったのかもしれませんが。やはり先生おっしゃるように、子どもが直接、誰も介さないところでやりとりできるところによさがあると思いますので、そして非常にニーズが高いものでもありますので、対応の仕方についてしっかり検証を重ねて参りたいと考えております。

○白畑真由美会長

件数的には相当増えているという状況をお聞きしておりますので、より効果的な運用の仕方をご検討いただければと思います。

それでは次、(3) こども計画骨子の案について、事務局より説明をお願いいたします。

○こども未来課佐藤子育て支援主査兼子育て支援係長

(資料3により説明)

○白畑真由美会長

評価などを踏まえて、また県の骨子に基づいて、今後7年度からの5年間の計画骨子を

示していただきましたが、今の骨子案について何かご質問、ご意見などございませんでしょうか。

○宮田浩一委員

来年度からまた新たな体制作りとしていろいろご提案いただいておりますけれども、まず第一に今日の参加者が十人減になっております。非常に残念だなと思っておりますし、それと今日この場に来て初めてこの資料をいただきましたけれども、できれば事前にいただいて、それぞれ個々に考えをまとめてこの場に来て、いろんな意見を述べられるような、そういう環境づくりが大事だったんじゃないかなと個人的に非常に思っております。今回欠席の方にも、当然この資料は配付になると思いますけれども、こういう資料を見ていただいて、次回の会議に臨んでいただくような、そういう形をぜひ整えていただきたいなと考えておりました。いただいた資料から、考えたんですけれども、基本施策第2の次代を担う若者を支援する環境づくり、私は酒田の将来を考えればこの施策が一番大事なんじゃないかなとそうように考えておりました。この冊子（現計画）の57ページに新規高卒者の県内就職率が書いてありますけれども、酒田公共職業安定所からの資料となっております。この中には、県内就職率という表現になっておりますけれども、酒田圏内から庄内までは自分の車で勤務できるので、できれば酒田もしくは庄内での就職率に表現を変えることによって、もう少し把握ができるのではないかと考えておりました。この施策の内容につきましては、7つの項目をそれぞれ集約してまとめて書いてありますけれども、これは行政サイドとして効率を考えてなさったんじゃないかなと思いますんで、これはこのままでもよろしいんじゃないかなと思いますけれども、この基本施策2の4ページ、平成30年の25%は、全体を通して7つの基本施策の中で、このパーセンテージが一番低いですね。低いからこそ、これを上げるような手だてをもっともっと具体的に考えていかなきゃならないんじゃないかなと思っておりますし、令和6年が黒丸印になっておりましたアンケート調査は今後実施となっておりますんで、これがどういう形で上がってくるか、私は期待しておりますけれども、やはりこれから市内に就職する率を高め、そして結婚して子どもを産む率も高めていくためには、この施策が一番大事な基本じゃないかなと考えております。そのあとに続くのが、基本施策の1になってくるんじゃないかなと。そういった意味でこの辺の内容をもう少し具体化を頑張っていただいて、またお示しをしていただければというお願いでございます。

○阿部こども未来課長

資料の事前配付については、本日この場でいろんな資料をお見せしてご意見をうかがうことになり大変申し訳ないと思います。委員のおっしゃる通り、事前にお渡しして見ていただいた上で会議開催ということであれば、一番スムーズだったかなと感じております。ただ、ここのアンケートの集約ですとか、内部での評価のまとめなどに大分時間がかかってしましまして、当日のお渡しで大変失礼いたしました。今日欠席された委員の方々にも資料をお渡しして、ご意見をちょうだいする形にさせていただきたいと思います。また、今日ご出席の委員の皆様からも、今この場ではなくて後で例えばこういう意見があるとい

うことがあれば、その辺りもお聞かせいただいた上で反映させていただいて、次の会議にまたお示しをさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○白畑真由美会長

では、ぜひ本日発言されていない皆様からも、いろんな形でご意見ですとかご質問などを会議終了後でも構いませんので寄せていただいて、よりよい計画に反映させていただきたいと思いますので、ご協力をお願いします。骨子案については、何かございますでしょうか。多分今後ここに紐づけされる具体的施策が出てくると思うので、その具体的施策が見えてこないと何かこう柱だけのような感じがして意見もなかなか出てこないのかなという感じがするので、また今後に向けてもし皆様からよろしければその具体的施策のところにこんなことを期待したいとか、こんなことをお願いしたいというなことで、日頃感じていることをぜひ事務局の方にフィードバックしていただければありがたいと思います。骨子案ということで、今後また具体的に進めていただきたいということで、よろしくお願いしたいと思います。

あと、協議の（４）その他ということで、皆様から何かこの場で協議したいようなことなどはございますでしょうか。なければ、次に進ませていただきます。

～ ４ 報 告 ～

○白畑真由美会長

次第の４報告（１）八幡保育園の保育についてということで、資料４により事務局から説明をお願いいたします。

○村上保育こども園課長

（資料４により説明）

○白畑真由美会長

本当にまだ３カ月しか経っていないなという感じであります。その間、きめ細かく保護者の皆様にも説明をいただいて、ご検討いただいたというのが分かるかと思います。八幡保育園の保育について何かご質問、ご意見などございますでしょうか。これから冬に向かっていく期間なので、長い距離を運転するところのリスクと保護者さんの負担感のあたりをうまくカバーしていただけるような手だてを講じていただければと思います。どうぞよろしくお願いをいたします。その他に何かございませんでしょうか。

ないようでしたら、議事を終了させていただきたいと思います。ぜひ、今回発言いただけなかった委員の皆様からは、後程でよろしいので、感じていらっしゃるようなことをお伝えいただければと思います。議事にご協力をいただきまして、どうもありがとうございました。では事務局へお返ししたいと思います。

～ 5 その他 ～

○こども未来課土門課長補佐

5 番のその他でございます。再び保育こども園課より、令和 6 年度酒田市保育力向上事業研修会につきまして、ご案内申し上げます。

○村上保育こども園課長

(案内文書により説明)

○こども未来課土門課長補佐

今ほどの案件で何かお聞きになりたいことございますか。

ないようでしたら、こちらからのご案内に移ります。次回の会議につきましては、1 月の上旬を予定しております。開催が決まりましたら、皆様に文書をもちましてご案内申し上げますと思います。それから、報酬及び旅費をお支払いいたします。小さな封筒に内訳書を入れてお配りしてございますので、今から 3 週間ほどで指定口座の方にお振り込みしたいと思っております。以上、事務局からでございました。あとほかに皆様の方からなければ、本日の次第これで終わりにさせていただきますが、いかがでございますか。

～ 6 閉 会 ～

○こども未来課課長補佐

長時間にわたりまして、本日はありがとうございました。また。ご多忙のところ急遽ご参加いただきました方もおりました。どうもありがとうございます。以上をもちまして、令和 6 年度第 2 回子ども・子育て会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。